

たまがわ びと

多摩川流域の水と緑に深く関わっている方から、お話を伺うコーナーです。

第5回

岡部 政幸さん (山梨県北都留郡丹波山村 村長)

活力・うるおい・ふれあいの里

丹波山村・丹波山温泉「のめこいの湯が人気」

源流域の森、美しい自然環境の保全と活用、

近隣市町村や都市住民との交流を通じて村民が誇りを持てる村づくり



多摩川の源流・丹波川が奥多摩湖にそそいでいます。雲取山、飛竜山、大菩薩嶺などの険しい山々に囲まれ、面積は101.55km²、97%は山林、そのうちの70%は東京都の水源涵養林として守られ、深い緑と清らかな溪流が四季折々美しい風景を楽しませてくれます。丹波山村の歴史は古く縄文式土器や住居跡が発掘され古くから遠い祖先が住み着いていたことがうかがわれます。戦国の武将、武田氏の全盛期には、黒川金山の採掘のため金山奉行が置かれ、黒川千軒、丹波千軒と呼ばれる程の賑わいがあったと伝えられています。

人口は昭和30年2,302人をピークに減りつづけ、現在は630人320世帯高齢化率47%となりました。まだ少数で

すが高校、大学を出て都市で生活した若者が、戻って村の再生に意欲を見せる頼もしい活動もあり、出番に期待します。また、親子山村留学の推進にあたっております。源流の豊かな自然環境を活用した体験学習では、子供の個性を伸ばし、豊かな心を育てております。道志川、早川、丹波川の3地域が集まり水源地ブランド協議会を立ち上げ、11月28日にシンポジウムを開催しました。CO₂削減の森の間伐材活用で木工品の生産、まきストーブの開発の試み、特産品開発や商品化等モノづくりに挑みます。伝統文化行事では、1月7日のお松引き、丹波山源流夏祭りでの祇園祭・ささら獅子舞等、若者が頑張っています。応援をよろしくお願いいたします。

人をつなげる森と川 — せせらぎ館をまちの広場に —

かわさき多摩川博シンポジウム2013 平成26年2月28日(金)18:00～



基調講演に田中友章氏(明治大学理工学部建築学科教授)を迎えます。生田緑地～藤子・F・不二雄ミュージアム～ニヶ領せせらぎ館をトライアングルとし森と川とまちを有機的につなげて、明るくより活力のあるまちにするには、人はどうかかわっていけば良いか? をテーマに基調講演、地域で活躍しているパネリストの方たちの思いを討議します。「ニヶ領せせらぎ館をまちの広場に」地域交流のための主要ポイントとして、子どもから大人までみんなで集える場所として今以上に変革してゆくにはこれから何が必要か? ハード? ソフト? みんなで考えましょう!

主なプログラム

- 18:00 オープニング ソプラノ独唱 荒武 菜穂子さん
- 18:20 あいさつ 福田 紀彦川崎市長
- 18:30 基調講演 田中 友章 明治大学教授
- 19:30 パネルディスカッション コーディネーター 川崎 泰之氏
パネリスト 相川 拓也氏 波多腰 太氏 橘 直子氏 福田 真氏

繋がる、
広がる

多摩川の輪

Vol.5

編集後記 お正月は心あらたに今年に願いを込めることができる、よい節目です。皆さんも大きな期待を今年に寄せているのではないのでしょうか。設立10年を超えたせせらぎ館を担うスタッフも、さらに館の機能強化に向けて模索中です。試みに、今年度末に開催する多摩川博シンポジウムは2月28日多摩市民館大会議室(18:00～)で「人をつなげる森と川～せせらぎ館をまちの広場に～」をタイトルとして多くの人の声を集めたいと思います。川崎の誇れる環境資源・多摩川をもっと多くの人に、触れて、体験して、自然を感じてもらいたいと願っております。都市化した生活の中だからこそ、水や水のある風景に浸ることが人間力を回復できるものと信じて、今年も子ども、親共々が、体験できるプログラムをたくさん企画したいと思います。

せせらぎ館スタッフ一同



ニヶ領せせらぎ館

- アクセス
JR南武線・小田急登戸駅 徒歩10分
JR南武線 宿河原駅 徒歩15分
※駐車場はありませんので、車でのご来場はご遠慮願います。
- 開園時間
午前10:00～午後4:00
6月～9月の土・日・祝日
午前10:00～午後5:00
- 休館日
毎週月曜日
(月曜が祝日の場合はその翌日)